

# 編集後記

▼新指導要領に完全準拠した教育が、いよいよ四月から小学校でスタートしました。新指導要領の性格や内容に関わる様々な問題についてはこれまでも本誌上で取り上げてきましたが、本号では改めて、小学校低学年に新しく登場した「生活科」をテーマに特集を組みました。昨年十二月十四日に開いた第一回教科書問題シンポジウムでの報告がメインです。

▼「新教科書と子どもの学力」(板橋育夫・高橋武昌)と「新潟県の教科書は誰が選ぶか」(吉田武雄)は、本年度研究所の基礎的研究に掲げた、教科書の内容分析・批判の一つです。今後もシリーズで掲載していきます。

▼「教員派閥研究における記念碑的著作」(三輪定宣)は、連載してきた『学園』問題』についての研究者の評論です。次号からも研究者による評論、あるいは現場教員の手記や座談会など掲載していく予定です。皆さんからいろいろな論評

をいただければありがたいと思います。▼「忘れ得ぬ人々」(板東克彦)の連載が始まりました。ご期待下さい。

(片岡 弘)

▼長崎理事長の自伝小説「わが道を求めて」は30号で終わりました。四年、十五回、有難うございました。財政不如意のため、稿料は掲載二冊でご勘弁願っているのですが、本当に恐縮です。

▼今回副理事長・坂東克彦氏の「忘れ得ぬ人々」新潟水俣病のたたかい」の連載が始まります。坂東弁護士は新潟水俣病第二次訴訟の弁護団長。

▼92年三月三十一日、新潟地裁は新潟水俣病第二次訴訟の判決を出しました。国の賠償責任は認めなかったものの、原告のほとんど全員を水俣病患者と認めました。二度にわたって改悪された国の認定基準が事実上司法によって否定されたことは、重要な意味を持っています。

▼機関紙「いがたの教育情報」は季刊ですから、ことさらに速やかに対応し、読者にお届けすることはできません。水

俣病訴訟、三月三十一日の判決は、『研究所通信』に載せました。「通信」は隔月発行十二ページで、規約にいう「会報」に当たります。研究所会員に加入されて、研究紀要的な「情報」と、速報性をもつ「通信」を併せて読んでいただければ幸甚に存じます。

(若月又次郎)

## いがたの教育情報 No. 31

1992年5月1日発行

編集・発行 いがた県民教育研究所  
発行人 長崎 明

新潟市東中通1-86 山崎ビル2F  
〒951 電話(025)228-2924  
振替口座・新潟4-12332  
印刷所 あかつき印刷(株)  
長岡市新産4-4-7

本誌内容の無断転載を禁じます。